

【研究課題名】

ヒト腫瘍の発生・進展における細胞極性および転写後制御関連タンパク質群の発現及び関与の検討

【研究概要】

消化器がん、婦人科がん、呼吸器系がんを含む可能な限り多種のがん（数十例ずつ）について、免疫染色法により候補タンパク質の発現や局在を調べることにより、対象とすべきがんを絞りこみます。次に、一或いは二種のがん腫について、統計学的に十分な数の試料を用いてがんの生物学的性状などの個性や予後との関係を解析評価します。ここで診断マーカー及び創薬標的としての有用性が認められたタンパク質について、タンパク質、RNA、体細胞ゲノム、がん幹細胞など分子及び細胞レベルでの詳細な解析を行います。

【本研究の目的・医学的意義】

本研究はがんの個性の診断法の開発、及び個性の診断を踏まえた分子標的治療薬の開発に向けた基礎研究です。様々ながんで遺伝子異常の蓄積と細胞極性の異常があることが知られていますが、私たちはこれらのがんの特徴を逆手にとって診断や治療に利用する事を目的として研究を進めています。これまでの研究からがんの個性の診断や個性に応じた治療の候補となるタンパク質群を多数見いだしています。本研究では、これら候補タンパク質群の一つひとつについてがんの個性との関わりやメカニズムを詳細に検討することにより、その診断マーカー及び分子標的としての有用性や、治療の標的としての妥当性を評価することを目的としています。

【研究責任者】

医学部 分子生物学 教授 大野 茂男

【共同研究機関】

神奈川がん臨床研究・情報機構（神奈川県立がんセンター）
（共同研究機関の役割分担）臨床試料の供給

【試料提供協力】

横浜市立大学 外科治療学、消化器・腫瘍外科学、泌尿器科学、産婦人科学

【使用予定試料の対象】

肺、膵臓、胃、子宮、卵巣、前立腺

【試料の採取時期】

2005年4月～